

令和7年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務

NPO、企業等との連携・協力事業
(マッチング事業)

報告書



福島県

ふくしま地域活動団体サポートセンター

事業委託：福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課

事業受託：認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

目次

1. 事業の目的	3
2. 事業スケジュール	4
3. 事業の内容	5
(1) NPO、企業等の情報収集	
情報収集	5
NPO、企業等へのヒヤリング（聞き取り調査）	
情報提供	11
① NPO、企業等との連携・協力についての事例集作成・公開	
② NPO、企業等向け各勉強会の実施	
伴走支援	15
① 伴走支援を希望する NPO の募集	
② 協働	
③ 伴走支援	
(2) マッチングのモデルケース創出	47
(3) NPO と企業等との協働推進シンポジウムの開催	50
(4) マッチング事業の情報発信（ウェブサイトの作成・公開等）	50
4. マッチング事業の成果	52

1. 事業の目的

少子高齢化の進行に伴う人口減少や自然災害の頻発・激甚化など、地域における社会課題が複雑になり、多様化、複合化している中で、それらを解決し、持続可能な社会を実現するためには、行政のみならず、企業、地縁組織、NPO等の多様な主体によるアプローチが重要になっています。一方でどの主体においても担い手が不足している状態となっており、相互で連携・協力する「協働」の取組みや多様な主体をつなぎあわせる「マッチング」の取組みが重要となっています。

NPOは専門性・柔軟性・先駆性等の特性を有しており、企業等と協働することにより、地域の課題解決や住民主体の地域づくりがより効果的に実施されることが期待されます。

このNPOと企業等の「協働」による社会課題解決を推進するため、福島県のNPO支援センターである「ふくしま地域活動団体サポートセンター」が県内のNPOと企業の社会課題の解決に向けた活動に関するデータを収集し、それらをもとにマッチングさせ、協働事業として実現させることを目的とします。

<NPOと企業等のマッチング事業について>

今年度のマッチング事業では、復興・被災者支援を行うNPOが、企業等と結びつき、実際の活動に至るまでのマッチング支援を行うとともに、NPOと企業等の交流を図り、効果的に復興・被災者支援を行うための情報収集や情報提供を行う。

具体的には、①マッチング支援（NPO、企業等の情報収集・情報提供、伴走支援等）、②マッチングのモデルケース創出、③NPOと企業等との協働推進シンポジウムの開催、④マッチング事業の情報発信（ウェブサイトの作成・公開等）を実施した。

2. 事業スケジュール

(事業活動期間：令和7年4月8日～令和8年3月31日)

(1) NPO、企業等の情報収集（随時）

◇ NPO、企業等の情報収集

NPO、企業等へのヒヤリング（聞き取り調査）

◇ 情報提供

1. NPO、企業との連携・協力について事例集作成、公開
2. NPO、企業向け各勉強会の実施

◇ 伴走支援

1. 伴走支援を希望するNPOの募集
(令和7年8月18日～令和7年12月26日まで)
2. 協働（検討、具体化）
3. 伴走支援（新規、継続）

(2) マッチングのモデルケース創出

多様な主体による地域円卓会議（浪江町）

開催日時：令和7年10月25日

多様な主体による地域円卓会議（大熊町）

開催日時：令和7年12月6日

(3) NPOと企業等との協働推進シンポジウムの開催

「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」の開催
～成果報告や企業等との協働事例を通して考える「ふくしまの復興」～

開催日時：令和8年2月6日(金) 13:30～16:00

会場：福島市市民活動サポートセンター

(4) マッチング事業の情報発信（ウェブサイトの作成・公開等）（随時）

3. 事業の内容

(1) NPO、企業等の情報収集

◇ 情報収集

NPO、企業等への訪問等（聞き取り調査）

<実施概要>

○目的

東日本大震災から14年が経過した福島県における地域課題（人口減少、高齢化、震災からの復興・再生）の現状把握とNPO、企業等との連携・協力（協働）による地域解決の状況、各セクター間の協働ニーズ等の調査を目的とする。

○対象

NPO等、民間企業、教育機関、行政機関など

○ヒヤリング実施実績：56件 ※重複有

(NPO等：15件、企業等：19件、その他：15件、復興・被災者支援：7件)

※ 「NPO等」とは、特定非営利活動法人、ボランティア団体、公益法人、一般社団（財団）法人、社会福祉法人、学校法人、地縁組織（自治会、町内会等）、協同組合等の民間非営利組織を指しています。

※ 表中のイ)～ハ)の内容は下記のとおり

- イ) 協働できそうな他セクターを紹介する
- ロ) 他セクターとの打合せの場をセッティングした
- ハ) 協働実現に向けてサポート等を実施した

※番号記号について

N：NPO等、C：企業等、O：行政機関を含むその他

F：復興・被災者支援NPO等

NPO等への情報収集

No	名称	イ)	ロ)	ハ)
N1.	NPO 法人まちづくりぜえね			
N2.	一般社団法人ふくしま連復復興センター	○	○	
N3.	一般社団法人 Bridge for Fukushima		○	
N4.	NPO 法人 Global mission Japan		○	
N5.	NPO 法人福島県立美術館協力会	○	○	
N6.	NPO 法人小さな拠点おおか	○	○	○
N7.	ビルダーズドリームラボ(任意団体)	○	○	○
N8.	NPO 法人福島市聴覚障害者福祉会 (なのはなの家)	○	○	○
N9.	一般社団法人 CARNIVAL WORKS		○	○
N10.	NPO 法人はなのころ	○	○	○
N11.	kokoyori(任意団体)	○	○	
N12.	一社シャローム福祉会まちなか夢工房			
N13.	一般社団法人 tenten	○	○	
N14.	NPO 法人いわき市障がい者職親会			
N15.	NPO 法人あきたパートナーシップ			

企業等への情報収集

No	名称	イ)	ロ)	ハ)
C1.	ウエルシア薬局株式会社			
C2.	キャノンマーケティングジャパン株式会社	○	○	○
C3.	福島鋳金工業株式会社	○	○	○
C4.	有限会社ネットワーク調剤	○	○	
C5.	株式会社セイコー建設		○	○
C6.	株式会社プレイスメイキングふくしま伊達	○		○
C7.	三本珈琲株式会社 ダイユーエイト MAX 福島店			○
C8.	東北労働金庫福島県本部	○	○	

C9.	福島キヤノン株式会社	○	○	○
C10.	ダイコー (株)			
C11.	庄司建設工業 (株)	○	○	○
C12.	東北建設 (株)	○		
C13.	株式会社こんの	○	○	○
C14.	日本政策金融公庫	○	○	
C15.	OWB 株式会社			
C16.	NOK 福島事業場	○	○	○
C17.	福島酸素 (株)			
C18.	S-PAL ふくしま			
C19.	アルファ電子株式会社			

○行政機関を含むその他

No	名称	イ)	ロ)	ハ)
O1.	福島県立商業高等学校	○		○
O2.	福島県立明成高等学校	○		○
O3.	ECC 国際外語専門学校	○		○
O4.	原町商工会議所			
O5.	いわきコンピュータ・カレッジ			
O6.	相双地方振興局			
O7.	ふくしま自治研修センター			
O8.	福島県立聴覚支援学校福島校	○	○	○
O9.	西間木農園			
O10.	ふくしま SDGs 推進プラットフォーム	○		○
O11.	須賀川市役所環境課			
O12.	福島市森合檜台町内会	○	○	○
O13.	就労継続支援 B 型事業所オハイアライ	○	○	○
O14.	福島県教育庁 特別支援教育課			

O15.	福島市ふくしま支援学校			
------	-------------	--	--	--

○復興・被災者支援 NPO 等への情報収集 重複団体は※を記した

No	名称	イ)	ロ)	ハ)
F1.	NPO 法人アースウォーカーズ (福島市)			
F2.	NPO 法人あぶくま山の暮らし研究所 (田村市)			
F3.	南相馬市市民活動サポートセンター (南相馬市)	○	○	○
F4.	NPO 法人くらすタ (田村市)			
※F5.	一般社団法人ふくしま連携復興センター (福島市)	○	○	
※F6.	NPO 法人小さな拠点おおか(いわき市)	○	○	○
※F7.	OWB 株式会社(旧小高ワーカーズ) (南相馬市)			

<令和7年度 NPO、企業等への聞き取り調査の実施を終えて>

○各地域における現状と課題

- 県内各地域において、少子高齢化が進んでおり、それに伴い、高齢者の交通手段の確保が重要となっています。
※聞き取り調査した福島市蓬莱地区やいわき市川前地区で導入しているコミュニティバスや有償ライドシェアの取組みが参考となる。
- 旧避難区域において、若年層の中心部への移転による「世帯の分離」が加速しており、地域での活力の低下が顕著となっています。一方で、中心市街地においても、自治会等の担い手不足が課題となっている。
- 障がい者雇用においては、障がい者の雇用促進と障がいの特性にあったマッチングが求められている。

○NPO、企業との連携・協力の課題として

- NPO 側が企業にアプローチする際、企業の社会貢献を担う担当窓口が不明なため、リーチすることができない現状がある。
- 企業側としても、子育て、担い手不足などの社会課題に対して、積極的な面もあるものの、単独で実施するケースが多く、NPO 等との連携・協力までには至っていない現状がある。また、NPO 活動の認識が低い現状があり、NPO 等との協働による具体的なイメージが難しい状況となっている。
- 被災 1 2 市町村においては、建設業が多く立地しており、NPO との協働に親和性があるスーパーなど、生活者に密着した企業が少ない現状がある。

○NPO、企業との連携・協力の推進に向けて

コーディネーター、プロボノ人材の活用

NPO、企業との双方のつなぎ役、対等なパートナーシップを築くことに向けたコーディネーターの存在が必要となる。NPO は限られた人員で運営しており、また、支援活動が中心となるため、人的な余裕がない状態が慢性化している。そのため、外部からの人材の活用が重要となり、コーディネーターやプロボノ人材などが求められる。

○マッチング支援に向けて

- 伴走支援の強化：マッチングの場を提供するだけでなく、NPO 側、企業側、双方の要望を調整し、マッチングする「つなぎ役」としての機能の強化。
- 専門的バックアップ：労務・人事管理等のバックオフィス業務に関する専門家とのマッチングや、プロボノ活用のための勉強会等が必要。
- 情報の見える化：NPO 等との協働に積極的な企業の窓口リストなどの作成。
- 新たなマッチング場の創出：社会課題をテーマとして、企業と NPO との意見交換の場づくりを創出。

NPOと企業等との協働セミナー等への参加実績

- ・ 9月2日-9月3日 NPO支援センター初任者研修会
- ・ 12月23日 赤い羽根福祉基金 第10回 助成記念成果報告会
- ・ 11月25日、12月2日、1月13日（3回）
ふくしま県域災害支援ネットワーク研修会

◇ 情報提供

① NPO、企業等との連携・協力についての事例集作成・公開

■事例集の作成

- (1) 就労弱者への自立支援と社会とのつながりをつくる協働の取組
- (2) 東日本大震災の絆がウクライナ避難民の受入支援につながる協働の取組
- (3) 地域とつながる、安心と笑顔の拠点を目指す協働による企業の取組

■事例集の公開

各事例について、サポセン NPO、企業等のマッチング事業 HP において公開した。

URL : <https://fnpo-matching.f-saposen.jp/>

② NPO、企業向け各勉強会実施

■勉強会の目的

NPO、企業等とのマッチングを促進する取組みとして、こども食堂などの社会的に関心が高いテーマを掲げることで、企業等が参加しやすい環境を整え、NPO、企業等が顔の見える交流の場を提供し、社会課題解決に向けて活動する NPO 等の連携・協力を推進することを目的とします。

■勉強会で取り上げるテーマ

1. 『こども食堂』の取組みについて：令和8年1月19日実施済み
2. 防災でつながる連携づくり（検討）
3. ソーシャルビジネス支援資金、助成金・補助金の活用について（検討）

■実施内容

1) NPO、企業等との勉強会(情報交流会)

～地域で支えるこども食堂の取組み～

○実施概要

【日時】 令和8年1月19日(月) 14:00～14:30（開場 14:15）

【開催方法】 ハイブリッド開催（会場・Zoom）

【会場】 福島市市民活動サポートセンター 会議室 A

（福島県福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3階）

【対象】 企業、こども食堂を運営する NPO 等

【構成】 2部構成 ※終了後、交流&名刺交換を開催

【参加実績】 参加者：18名（会場：11名、オンライン：7名）

2) 防災でつながる連携づくり（検討）

○実施概要：勉強会の素案

地震、台風、大雨などによる自然災害が頻発しているなか、NPO、企業、地域、行政ともに関心の高い「防災」をテーマとして勉強会を検討。

同勉強会において、災害ボランティアネットワークや企業による地域と連携した防災活動の事例等を紹介し、企業、行政、災害ボランティア団体、地域住民等が一体となり、日頃から協働で取り組む重要性や各セクター間の顔の見える関係づくりを目指す取組みを計画

また、要援護者に配慮した防災訓練など、福祉系 NPO の参加を促し、「防災と福祉」の相互連携の視点も取り入れる予定。

○事前準備

- ・ ふくしま県域災害支援ネットワーク研修への参加（3回）
- ・ NOK 株式会社が行う地域防災協定のヒヤリング
- ・ 災害時の連携を考える秋田フォーラムのヒヤリング

※上記、検討を重ねたものの、今年度の実施には至らなかった。

3) ソーシャルビジネス支援資金、助成金・補助金の活用について（検討）

○実施概要：勉強会の素案

特に NPO に関心がテーマとして、資金調達を取り上げ、金融機関、助成団体とのつながりの場を提供する取組みを計画。

勉強会の内容としては、県内の NPO を対象として、さまざまな資金の活用方法について勉強会の実施を計画。日本政策金融公庫からスタートアップの資金としての融資や各種助成金・補助金のつなぎ資金としての融資の活用事例を話題提供してもらい、さまざまな資金活用の方法の理解を深める。また、休眠預金を活用した助成金についても話題提供も含める予定。

実施に向け、日本政策金融公庫が開催している「ふくしまソーシャルビジネス支援ネットワーク」に参加（2回）、検討を重ねたものの、今年度の実施には至らなかった。

◇ 伴走支援

① 伴走支援を希望する NPO の募集

○目的：

ふくしま地域活動団体サポートセンターが事務局となり、復興・被災者支援に取り組む県内NPO と地域貢献や事業を通じた課題解決に関心のある企業とのマッチングを支援し、これにより具体的な協働事業を創出し、多様な社会課題の解決を推進させることを目的とします。

○対象：県内のNPO 法人等（特に復興・被災者支援を行うNPO 法人等）

○募集期間：令和7年8月18日～令和7年12月26日まで

※ 応募のあった団体より、順次、伴走支援等を実施いたします。

※ 募集方法：メールリストを活用

○本事業の主な流れ：

- (1) 別紙「企業等との連携・協力に向けたマッチング要望シート」の提出
- (2) 当センターとのヒヤリング（Zoom 等）
- (3) 協働実現に向けた伴走支援の内容
 - マッチング事業に積極的な企業等の紹介
 - 企業等との面談等のサポート
 - 協働事業実施のサポート
 - マッチング事業開催イベントへの参加
- (4) 報告書の提出

○応募について

別紙「企業等との連携・協力に向けたマッチング要望シート」を記入の上、事務局宛までメールにて応募する方法。

※マッチング要望シート、マッチング要望シート記載例は添付資料のとおり

○募集実績

令和7年8月18日 福島県内に所在するNPO法人（456法人）へ募集メールを送付

■ マッチング要望シートの提出があった団体

- ① 特定非営利活動法人はなのころ（いわき市）
- ② 特定非営利活動法人チームふくしま（福島市）

※ 昨年度からの継続団体：

- ③ 特定非営利活動法人裏磐梯エコツーリズム協会（耶麻郡北塩原村）

■ マッチング要望シートの内容

① 特定非営利活動法人はなのころ（いわき市）

記入日：令和 7年 8月 28日	
企業等との連携・協力に向けたマッチング要望シート	
<p>本シートは、貴団体が持つ強みや課題、そして企業等との連携を通じて実現したいことを明確にするためのものです。具体的にご記入いただくことで、より良いマッチングの可能性が高まります。 ※各項目で何を書けば良いかが明確になるように【記載ポイント・記載例】をまとめてあります。 是非ご活用ください。</p>	
1. 団体情報（貴団体の基本的な情報をご記入ください）	
団体名 (法人格からご記載ください)	特定非営利活動法人はなのころ
役職	理事長
担当者名	西山将弘
連絡先（電話）	
連絡先（メール）	
2. 団体概要（団体の活動内容が具体的に伝わるようにご記入ください）	
<p>2020年4月、「夢を咲かせる」という理念を掲げて任意団体として活動開始。去年11月に法人化。目的は障がい者が「好きなこと」「得意なこと」で社会と繋がり、生きがいを生み出すこと。障がい者の作品発表の場をつくる「ギャラリー」、作品でデザインしたグッズ・アパレルを制作販売する「ショップ」、デジタルイラストを制作する「デザイン」、交流イベントを企画する「パーク」の4事業に取り組んでいる。今年4月、いわき市平地区で交流ギャラリースペース「はなのころBASE(ベース)」をオープンし、障がい者の作品展示や交流の場づくりも行っている。</p>	

<p>3. 活動地域（主に活動している地域や今後活動を広げたいと考えている地域をご記入ください）</p>
<p>主にいわき市内で活動。 財政基盤が安定したら販路を首都圏に広げたい。</p>
<p>4. 団体の強みについて（提供できるリソース。企業にとって魅力的となる貴団体ならではの強みや提供できる価値をアピールしてください）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市で「障がい・アート」の取り組みをしている数少ない法人(当法人ほど積極的に取り組んでいる団体はない)。 ・障がいを持つアーティストがいる(発達・知的・精神・身体障がいの方々約30人) ・アート作品のレンタルや展示先の開拓で広がった企業とのネットワーク。 ・スタッフに海外でも活躍した元服飾デザイナーがおり、障がい者の作品でデザインしたアパレル制作販売にも取り組んでいる。 ・障がいの有無に関わらない交流イベントを毎月開催。障がいを持つ作家が来場者を前に作品発表したり、ワークショップ、フリートークで交流している。毎回20～30人が来場し、遠くは郡山市や富岡町から当事者が作品発表に訪れる。こうした交流イベントの運営・企画力の期待を受け、県から委託を受けて今年10月に交流イベントの運営を任された。
<p>5. 協働ニーズについて（今回の連携・協力を通じて、具体的に「何を実現したいのか」もしくは解決したい課題をご記入ください）</p>
<p>①事務ができるまとめ役の人材がない アート作品をレンタルしていただける企業などが少しずつ広がって5社ほどになっているが、これ以上増えると窓口業務や絵画の管理が負担になり、事業拡大が難しい。デジタルデザインが得意な障がい者もいて、キャラクターデザインやチラシ制作などにも取り組みたいが、仲介できる事務員が不在でなかなか拡大できない。この他にも、公共の場での作品展示、アパレル制作、交流イベントなどの窓口や事務運営をしなければならないが、それらをまとめる人材がない。現在はほぼ理事長が事務業務を担い、限界に達している。このまとめ役の人材がいれば、各事業を自走させ、理事長が本来の業務ができ、大きく発展させられる。</p> <p>②財源基盤作り 現在、障がい者のギャラリー兼事務所としてテナントを借りているが、助成金に依存しており、それが来年3月末で切れるため、その後は綱渡りになる。今年中に助成金だけでなく、自力で収益を上げる基盤を作るのが目標で、レンタル業やアパレル販売に力を入れている。そのためにも①の課題解決が重要になる。</p>

6. 連携・協働したい企業、業種について（どのような企業や業種との連携を希望するか、理由もあわせてご記入ください）

一番は上記5.の①の課題を解決したく、事務・窓口を担えられる企業と連携を希望。アドバイスだけでなく、一緒に動ける企業であってほしい。

チラシやイラスト作成ができる障がい者で集めたデザイン事業や、障がい者のアート集団でレンタルを広げて街中に障がい者の絵を飾りたい、といったお話にワクワクされてもらえそうな、アートやデザインにご理解のある企業ですと、楽しく関わっていただけるものと思います。

例えば、事務的スキルを有する人材がいるのを前提にデザイン会社、美術館、画材屋などが

7. これまでの連携・協働実績（過去に企業や他の団体と連携した経験があれば、ご記入ください）

企業に作品展示場所を提供いただいたり、絵画レンタルを受けていただいたりの応援は受けているが、伴走支援を受けた経験はなし。

8. その他、要望等があればご記入ください。

繰り返しにはなりますが、まとめ役の事務ができる人材がおりません。この課題がクリアできましたら、障がい者の可能性も広げられ、各事業が自走できるようになると思っております。

ご支援のほど、よろしく願いいたします。

■ マッチングコーディネートの内容

※内容詳細については、伴走支援 2.協働-8)「人材不足を補う連携・協力づくり」を参照のこと

② 特定非営利活動法人チームふくしま（福島市）

記入日：令和7年12月26日

企業等との連携・協力に向けたマッチング要望シート

本シートは、貴団体が持つ強みや課題、そして企業等との連携を通じて実現したいことを明確にするためのものです。具体的にご記入いただくことで、より良いマッチングの可能性が高まります。
※各項目で何を書けば良いかが明確になるように【記載ポイント・記載例】をまとめてあります。
是非ご活用ください。

1. 団体情報（貴団体の基本的な情報をご記入ください）

団体名 (法人格からご記載ください)	特定非営利活動法人チームふくしま
役職	マネージャー
担当者名	山田沙也加
連絡先（電話）	
連絡先（メール）	

2. 団体概要（団体の活動内容が具体的に伝わるようにご記入ください）

理念「For next（次世代のために）」のもと、思いやりあふれる社会と平和の実現を目指して、防災事業と次世代事業を行っています。

【防災事業】

東日本大震災から始まった「福島ひまわり里親プロジェクト」では、全国の皆さまに育てていただいたひまわりの種が福島へ戻り、復興のシンボルとして咲き誇ります。採れた種は福祉作業所で油に加工され、バス燃料や備蓄用食品「ひまわりカレー」に活用される循環型の取り組みです。

これまで65万人・6,000校以上が参加し、障がい者雇用、観光、防災教育へ広がっています。

また、震災の教訓を伝える「ひまわり防災検定」や、全国と福島をつなぐ「ひまわり結婚式」「ひまわり甲子園」など、未来へつなげる交流と防災ネットワークづくりを進めています。

【次世代事業】

「恩送り」を形にしたお互いさまチケットや、無人の福祉型子ども食堂 コミュニティフリッジひまわりを展開し、「お互いさまの街ふくしま」を目指しています。福島市に100カ所を目指し、事例モデルを作る事で、震災以降応援いただいた皆様へそのモデルを恩返し、その地域の字世帯へ恩送りする事を目指している。

お互いさまチケットは、誰かの思いやり（先払い）で困窮家庭や学生が食事やサービスを受けられる仕組みで、福島県82カ所・全国129カ所・海外2カ所に広がっています。

コミュニティフリッジひまわりは、児童扶養手当・就学援助受給経済的困窮世帯や奨学金受給学生が利用でき、135世帯・400人以上が利用登録しており、ご寄付いただいた食料品・日用品を人目を気にせず利用できる無人福祉型子ども食堂。食支援だけでなく体験の貧困に陥っている子ども達へ体験イベントや、福祉作業所との連携を通じて福祉雇用創出し利用しやすい「福福連携モデル」。子どもたちの成長と、就職先・相談場所等情報発信通じた困窮世帯の自立につながるサポートを行っています。

4. 団体の強みについて（提供できるリソース。企業にとって魅力的となる貴団体ならではの強みや提供できる価値をアピールしてください）

・ネットワーク

福島県内外の自治体、福祉作業所、学校、地域住民、全国のNPO・教育機関との幅広いネットワークを有しています。特に、防災・子ども支援・福祉分野における横断的な連携が強みです。

・ノウハウ・実績

震災復興、防災教育、子ども・若者支援において、全国規模で事業を展開してきた実績があります。参加型イベントや循環型モデルの構築など、企業と協働しやすい事業設計が可能です。

・人材

企画運営を担う専任スタッフに加え、全国から集まるボランティアや学生、役員には様々な業種の経営者が所属。多様な視点を活かした協働体制を構築しています。

・広報力

SNS、WEB、書籍、動画等を活用し、企業との協働プロセスや成果を社会的価値として可視化・発信できます。

5. 協働ニーズについて（今回の連携・協力を通じて、具体的に「何を実現したいのか」もしくは解決したい課題をご記入ください）

「お互いさまの街ふくしま」を持続可能な地域モデルとして確立するため、企業との協働による事業基盤の強化と人材育成を実現したいと考えています。

現在、コミュニティフリッジひまわりやお互いさまチケット事業は、寄付やマンスリーサポーター等により運営していますが、今後は助成金等に過度に依存しない安定運営が課題です。そのため、活動資金の確保に加え、広報・IT・業務管理・経理などの専門スキルを持つ企業人材の協力を求めています。

また、事業の拡大・改善に向けて、ひまわり防災検定を活用した社員・次世代向け防災教育普及を企業と実施したいと考えています。社員研修や地域向けイベントとして展開することで、防災・BCP・レジリエンス意識の向上とともに、地域住民や子どもたちの受益者拡大、学びの質の向上を図ります。また、震災の教訓の伝承伝達を図ります。

さらに、お互いさまチケットの設置店舗拡大や、シングルマザー応援団企業（法人マンスリーサポーター）への登録を通じ、企業が継続的に地域課題の解決に関わる仕組みづくりを進めたいと考えています。

単なる支援にとどまらず、企業が持つ技術・人材・情報発信力と、当団体の地域ネットワークや実践ノウハウを掛け合わせることで、地域課題の解決に向けた共創プロジェクトを推進します。

これにより、「困ったときはお互いさま」という価値観が地域に根づき、企業にとっても人材育成・社会的価値創出・企業価値向上を同時に実現できる協働モデルを、福島から全国へ発信することを目指します。

6. 連携・協働したい企業、業種について（どのような企業や業種との連携を希望するか、理由もあわせてご記入ください）

・業種：

食品製造業、スーパーマーケット、流通業、IT企業、エネルギー関連企業、金融機関、地域密着型企业、飲食・サービス業

・理由：

食・防災・共助・次世代育成は複合的な社会課題であり、企業が持つ技術、物流、情報発信力、人材と連携することで、地域と企業双方に価値を生む協働が可能です。

CSRやSDGs、人的資本経営、防災・BCPに関心のある企業との中長期的なパートナーシップを希望しています。

7. これまでの連携・協働実績（過去に企業や他の団体と連携した経験があれば、ご記入ください）

- ・連携先：株式会社いちい
- ・連携内容：コミュニティフリッジひまわりご提供など
- ・成果：地域の困窮世帯が安心して利用できる拠点が生まれ、継続的な食支援と見守りにつながっている。
- ・連携先：全国の企業・団体、学校
- ・連携内容：福島ひまわり里親プロジェクトへの協賛・参加、お互いさまチケット導入、コミュニティフリッジひまわりへの食料等のご寄付、ひまわり防災検定受講
- ・成果：全国規模での共助の輪が広がり、地域課題を自分ごととして考える人材育成にもつながっている。延べ65万人以上、教育機関6千校以上が参加し、防災教育と復興支援の全国的な広がりを創出している。お互いさまチケットは福島県82カ所・全国129カ所・海外2カ所で導入。ひまわり防災検定計

8. その他、要望等があればご記入ください。

- ・企業の従業員の皆さまが、ボランティアや体験型プログラムとして参加できる機会を歓迎します。
- ・単発の支援にとどまらず、事業づくりを共に考える中長期的なパートナーシップを築きたいと考えています。
- ・協働内容は企業の関心や強みに応じて柔軟に設計可能です。
- ・チケット設置店舗やシングルマザー応援団企業登録(法人マンスリーサポーター)も募集させていただいております。

■ マッチングコーディネートの内容

- ※ ヒヤリング面談の打診をしたが、日程調整ができなかった。一方で、同団体は、伴走支援 2.協働-7)「企業×NPO 子どもが学べるイベントへの広報協力」において、継続してサポートしている団体となり、また、サポセン事業において、経営者ラボに参加している団体となっているため、そちらでの対応扱いとした。

③ 特定非営利活動法人裏磐梯エコツーリズム協会（耶麻郡北塩原村）

※ 昨年度からの継続団体

■ マッチングコーディネートの内容

- 昨年度の伴走支援のなかで、公益社団法人日本フィランソロピー協会を紹介し、同団体が実施している従業員ボランティア受入れ団体の登録を提案し、その後の進捗を確認したところ。登録したとの報告があった。ただし、現在のところ、ボランティアの応募実績はないとのこと。

- SAVE JAPAN プロジェクト参加への伴走支援を実施。

同プロジェクトを通して、同団体が実施している環境保護活動を支援する取組みとなり、損保保険ジャパン株式会社、日本 NPO センター、特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター、同団体との4者による協働事業となる。サポセンでは、同事業の紹介、4者間のつなぎ役として伴走支援を実施した。

※ プロジェクト事業名)

高山植物「バンダイクワガタ」を守るため、総合対策外来種であり福島県により緊急対策外来種に指定されているコウリントンポポの防除活動を通して、地域が連携して高山植物の保全体制をつくる事業。

※ SAVE JAPAN プロジェクトとは、NPO と地域の方、損保ジャパンが一緒になって、全国各地で「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクト。

※ 同プロジェクトの紹介ページ

<https://savejapan-pj.net/sj2025/fukushima/>

② 協働（検討、具体化）

○協働（検討、具体化）

実績件数：15件（新規：12件、継続：3件）

※内検討：3件、具体化：12件

※検討とは：実施（活動）はされていないが、内容が固まり、あとは活動する状態となっている案件

※具体化とは：実際に実施（活動）に至った案件

※過去のマッチング事業での継続案件も含む

1) 相双地域における復興支援活動でのNPOとの連携づくり（新規・検討）

【NPO等】 南相馬市市民活動サポートセンター（南相馬市）

【企業等】 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 東北復興・創生推進室

【実施概要】

- ・ キヤノンマーケティングジャパン株式会社（以下、キヤノンMJ）が実施する復興創生事業（みんなの笑顔プロジェクト）において、相双地域での連携先を探しており、サポセンが南相馬市のサポートセンターを仲介し、相双地域で活動する団体を紹介する取組み。
- ・ 同サポートセンターとのヒヤリングでは、南相馬市のNPO法人きぼうを推薦したいとの意見があった。

【実施スケジュール】

- ・ 5/16 キヤノンMJとのヒヤリング、同センターの紹介
- ・ 5/28 キヤノンMJの南相馬市市民活動サポートセンターの訪問
- ・ 10/20 サポセンと南相馬市市民活動サポートセンターとのヒヤリング

2) 福島県立専門高校、県外専門学校をつなぐ復興に向けた交流の場づくり

(新規・具体化)

【NPO等】 一般社団法人 CARNIVALWORKS (郡山市)

一般社団法人 Bridge for Fukushima (福島市)

福島県立専門高校、学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校

【企業等】 株式会社いちい、福島ガス株式会社、福島鋳金工業株式会社 等

【実施概要】

- ・ 福島県の風評払拭、復興/支援活動に取り組む学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校に対して、福島県立専門高校の生徒がこれまで学習してきた県内の復興状況や被災地の魅力を学生の視点で PR する機会をサポセンが設け、ECC 学園の活動等をより深化させる取り組み。
- ・ 復興支援に取り組むNPO等や地元企業とも交流を促進し、福島県の復興を担う人材の育成につなげる機会の提供をした。

【実施スケジュール】

- ・ 6/3 福島県立専門学校への打診とヒヤリング
- ・ 6/9 学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校への打診とヒヤリング
- ・ 6/16 福島県教育庁高校教育課、福島県産業教育振興会への内容説明
- ・ 9/4 報告会の実施 (参加者 57 名)

【報告会の様子】



3) ビルダーズドリームマルシェの継続へ向けた基盤整備づくり（新規・具体化）

【NPO等】 任意団体ビルダーズドリームラボ

【企業等】 株式会社セイユー建設（相馬市）

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 東北復興・創生推進室

【その他】 相双地方振興局（企画商工部 地域づくり・商工労政課）

【実施概要】

- ・ ドリームマルシェ（ビルダーズドリームラボ主催 令和7年6月1日実施）。福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）を活用して実施している。補助事業のため、事業の自走に向けた中期的な計画づくりが課題となる。
- ・ 資金面だけでなく、団体の構成組織が脆弱な現状から、より多様な主体との連携を目指し、NPO 法人化も含めた提案を実施。
- ・ 同イベントへのキヤノン MJ の復興支援活動の紹介、両者でオンライン交流会を実施。

※ドリームマルシェとは、子ども向けの職業体験や様々なアクティビティが楽しめるイベント。相馬市にて開催。

【実施スケジュール】

- ・ 7/10 相双地方振興局へのヒヤリング
- ・ 7/14 ビルダーズドリームラボへのヒヤリング
- ・ 8/1 ビルダーズドリームラボ支援企業へのヒヤリング
- ・ 1/15 キヤノンマーケティングジャパン、ビルダーズドリームラボとのオンライン交流会の実施（参加者 5名）

【オンライン交流会の様子】



4) 企業の地域貢献活動と地域NPO団体との連携・協力を通じた共生社会の実現

(新規・具体化)

【NPO等】NPO法人福島市聴覚障がい者福祉会（福島市）

（就労継続支援B型事業所なのはなの家）

福島市森合檜台町会（同地区の町内会）

NPO法人福島県立美術館協力会（福島市）

【企業等】福島鋳金工業株式会社（福島市）

【実施概要】

- ・ 福島鋳金工業（株）は、社会貢献活動の一環として隣接する福島県立美術館/図書館周辺のゴミ拾いや落ち葉回収作業を2007年から実施。
- ・ 特定非営利活動法人福島市聴覚障がい者福祉会 就労継続支援B型事業所なのはなの家様（以下、「なのはなの家」）も同じ森合地区に立地し、地域に貢献し地域から必要とされる存在となることを目指し、活動している。
- ・ 福島鋳金工業株式会社及び「なのはなの家」とも同じ事業理念を掲げていることから、互いに顔の見える関係を構築し、NPO活動の地域への波及、定着を目指す取組み。

【実施スケジュール】

- ・ 6/28、8/6、8/8、8/27 福島鋳金工業株式会社及び「なのはなの家」との事前確認及び打合せ
- ・ 9/16 福島鋳金工業株式会社及び「なのはなの家」合同での清掃美化活動実施
- ・ 12/8 福島鋳金工業株式会社、なのはなの家、福島市森合「檜台町会」の顔合わせ交流会の実施（参加者 5名）

【打ち合わせ、活動の様子】



5) 聴覚障がいの児童に伝わる教材づくりを目指す連携・協力（新規・具体化）

【NPO等】 NPO法人福島市聴覚障がい者福祉会等

福島県立聴覚支援学校（福島市）

就労継続支援 B 型事業所オハイアライ（いわき市）

【企業等】 福島キャノン株式会社（福島市）

【実施概要】

- ・ 福島県立聴覚支援学校において実施した環境社会貢献活動「ジュニア・フォトグラファーズ」（実施主体：福島キャノン株式会社）において、環境に関する難しい表現・単語について、対象者の小学校3～4年でも分かりやすい資料づくりが課題となった。
- ・ 障がい者への配慮する面も考慮し、資料・動画の作成が可能な障がい者支援団体と連携・協力して作成することを同社に提案。就労継続支援 B 型事業所オハイアライをマッチングコーディネートした。

【実施スケジュール】

- ・ 6/5 福島県立聴覚支援学校にて福島キャノン(株)が環境社会貢献活動を実施
- ・ 8/1 福島県立聴覚支援学校に、本イベント、協働についてヒヤリング
- ・ 9/8 福島キャノン(株)とのヒヤリング・意見交換
- ・ 9/9 動画制作可能団体を事前調査・ヒヤリング

- ・ 11/27 就労継続支援 B 型事業所オハイアライとのヒヤリング
- ・ 12/15 就労継続支援 B 型事業所オハイアライ及び福島キヤノン(株) マッチング交流会開催 (参加者 5名)
- ・ 1/28 福島県立聴覚支援学校への報告

【ヒヤリング、マッチング交流会の様子】



6) NPOイベント広報への協力 (新規・具体化)

【NPO等】 福島市市民活動サポートセンター (福島市)

NPO法人在宅介護支援ネットワークおりおりの会 (伊達市)

【企業等】 株式会社プレイスメイキングふくしま伊達 (伊達市)

【実施概要】

- ・ 同社が実施する移住・定住者支援の取り組みを県北地域のNPO等へ広報・PR するため、福島市市民活動サポートセンターへつなぎ、広報・PR を実施した取組み
- ・ 同イベント協賛企業等と広域での連携・協力関係の推進
- ・ NPO、企業等と連携して実施している移住定住の取組みをヒヤリング

【実施スケジュール】

- ・ 7/30 在宅介護支援ネットワークおりおりの会へヒヤリング
- ・ 8/1 株式会社プレイスメイキングへヒヤリング
- ・ 8/4 福島市市民活動サポートセンターへ依頼
- ・ 8/7 福島市市民活動サポートセンターHP 広報・PR 情報の掲載

【HP 掲載の様子】

NPO情報	
2025年6月7日	転入者交流会 DATE モクモク会
開催日:	
開催場所:	
料金:	
対象	結婚、就職、転勤等で伊達市へ転入された方（おおむね5年以内の方を優先）
定員	各回とも10名程度 ※定員になり次第締め切ります
参加費	一人500円 ※未就学児は無料
申し込み	申し込みフォームのQRコードからお申し込みください
備考	全回既見スペースあり！会場内でスタッフが見守ります

7) 企業×NPO 子どもが学べるイベントへの広報協力（継続・具体化）

【NPO等】 NPO法人チームふくしま（福島市）

福島市市民活動サポートセンター（福島市）

【企業等】 三本珈琲株式会社（神奈川県）

ダイユーエイト MAX 福島店（福島市）

【実施概要】 ～令和6年度NPOと企業等のマッチング事業で実現した事例～

- ・ 三本珈琲株式会社の製品製造時の食品ロス削減とダイユーエイト MAX 福島店で発生する販売時のフードロス削減の取組みを同時に実現するため、福島市でフードバンク事業を運営しているNPO法人チームふくしまに寄贈する取組み。
- ・ 寄贈式と同日に実施された三本珈琲株式会社主催の「夏休み子どもSDGsセミナーイベント」において、NPOチームふくしまが実施している「福島ひまわり里親プロジェクト」の活動紹介し、イベント参加者にひまわりの種を配布した。
- ・ 企業が実施するSDGsの取組みに対して、NPO法人チームふくしまが地域の受け皿となった取組み。

【実施スケジュール】

- ・ 7/14 三本珈琲株式会社に今年度のマッチング事業についての案内

- ・ 7/17 三本珈琲株式会社よりイベント告知依頼
- ・ 7/25 福島市市民活動サポートセンターに同イベントポスター掲示を依頼
- ・ 7/25 福島民報社、福島民友社に同イベント当日の取材依頼
- ・ 8/18 本イベントの実施

【イベントの様子】



8) 人材不足を補う連携・協力づくり（新規・具体化）

【NPO等】 NPO法人はなのころ（いわき市）

【企業等】 公益社団法人日本フィランソロピー協会

認定 NPO 法人 サービスグラント

株式会社マ尔特グループホールディングス

株式会社ハニーズ

【実施概要】

- ・ 伴走支援を希望する NPO の募集にて応募された団体。
- ・ マッチング要望シート提出 ※内容詳細は伴走支援-1 を参照のこと
- ・ 同法人の主な課題（人材、運営資金の不足）
 - 活動は多岐にわたるが、スタッフの人員が不足している。特に、各事業を統括する中間管理職的な役割を担える人材が不在。
 - 企業からの関心も高まっているが、窓口が一本化されているため、新たな連携の機会を逃してしまう危惧がある。

- ▶ アーティストの意欲（「描きたい」という気持ち）が高まって、それをサポートする体制が追い付かず、制作に至らないケースがある。
- ▶ 実店舗の家賃や光熱費は助成金で賄っているが、来年3月末で終了予定のため、今後の資金繰りに課題がある。
- ・ 人材不足に関しては、資金面での課題もあることから、プロボノ等を紹介し、企業ボランティア等の活用を提案し、同制度を紹介。また、いわき市における地域企業との連携・協力関係の強化するため、地元企業に団体の活動を紹介した取組み。
- ・ R8.2/9 に開催された「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」（福島県主催）において協働事例の発表を依頼し、同会において、協働事例の発表を実施。
- ・ 同会の交流会にて、出席された企業等へ団体紹介等のマッチングを実施。（浪江町、キャノン MJ、日本政策金融公庫等）

【実施スケジュール】

- ・ 9/9 マッチング要望シートに基づき、課題の確認、プロボノの提案
- ・ 11/27 NPO 法人の事務所訪問、対面でのヒヤリングを実施
- ・ 11/27 株式会社マルトグループへ団体紹介
- ・ 11/28 株式会社ハニーズホールディングスへ団体紹介
※同社特例子会社株式会社ハートフルサポートへ紹介
- ・ R8.2/9 成果報告・協働推進トークセッション in ふくしまにおいて協働事例の発表

【ヒヤリングの様子、協働事例発表の様子】



9) 地域で支える子ども支援のネットワークづくり (新規・具体化)

【NPO等】 一般社団法人 CARNIVALWORKS (郡山市)

Kokoyori (須賀川市)

一般社団法人ふくしま連携復興センター (福島市)

福島市のこども食堂団体等 (福島市)

【企業等】 福島キャノン株式会社 (福島市)

NOK 株式会社 (福島市)

福島ガス株式会社、福島信用金庫等

【実施概要】

- ・ NPO、企業等とのマッチングを促進する取組みとして、こども食堂などの社会的に関心が高いテーマを掲げ、「NPO、企業等との勉強会 (情報交流会)」として実施する取組み。各セクター共通の社会課題を掲げることで、企業等が参加しやすい環境を整え、NPO、企業等が顔の見える交流の場を提供し、社会課題の解決に向けて活動する NPO 等の連携・協力を推進することを目的とする。
- ・ 今後、復興・再生していく双葉地域においても、こども食堂の取組みを希望する団体へ課題等を共有し横展開をする取組み。

【実施スケジュール】

- ・ 1/19 NPO、企業等との勉強会 (情報交流会)
～地域で支えるこども食堂の取組み～ の実施
※参加実績：18名 (会場：11名、オンライン：7名)

10) 障がいを持つ児童を対象としたオンラインを活用した社会科見学（新規・検討）

【NPO等】NPO 法人きぼう（南相馬市）※予定

【企業等】庄司建設工業株式会社（南相馬市）

福島キャノン株式会社（福島市）

【実施概要】

- ・ 会社を訪問することが困難な障がいを持つ児童を対象として、オンラインを活用して、企業訪問等の社会科見学の実施を目指す取組み。
- ・ オンライン社会科見学用のテスト動画として、福島キャノン株式会社に協力を依頼し、テスト動画を撮影。
- ・ テスト動画を相双地域の企業（庄司建設工業（株））に提示しながら、地元の障がいを持つ児童を対象として、オンライン会社見学の実施を提案。
- ・ NPO 法人きぼうへのヒヤリング

【実施スケジュール】

- ・ 11/10 福島キャノン(株)にて、同社の「福利厚生施設」「製品紹介ブース」のオンライン見学用動画を撮影実施。
- ・ 11/26 同テスト動画を提示しながら、庄司建設工業へオンライン見学会の提案を実施。

【オンライン社会科見学用のテスト動画の様子】



11) ふくしま SDG s 推進プラットフォームとの連携づくり (継続・具体化)

【NPO等】 ふくしまSDG s 推進プラットフォーム

【企業等】 福島鋳金工業株式会社 (福島市)

【実施概要】

- ・ 福島鋳金工業株式会社へふくしまSDGs 推進プラットフォームを紹介し、今後の同社で実施する社会貢献活動の推進のため、同ネットワークに加わることを提案。

【実施スケジュール】

- ・ 6/28 福島鋳金工業株式会社へ提案
- ・ 12/11 同プラットフォームから同社加盟の連絡

12) ふくしま県域災害支援ネットワーク (FNAD) ×企業

(新規・検討)

【NPO等】 ふくしま県域災害支援ネットワーク (FNAD)

福島県行政書士連合会 (予定)

【企業等】 東北建設株式会社 (南相馬市)、NOK 株式会社 (福島市)

【実施概要】

- ・ NOK 株式会社が発災協定を福島市と締結しており、NOK が立地している地域の町内会等と連携して、防災訓練等を実施していることから、福島県内のネットワーク (FAND) を紹介した取組み。
- ・ ふくしま県域災害支援ネットワークより各士業とのつながりを強化したいとの要望があったため、福島県行政書士連合会とつながりを創出する取組み。※来年度実施予定

【実施スケジュール】

- ・ 10/22 東北建設株式会社、庄司建設工業株式会社へ同ネットワークが開催する地域ミーティング in 南相馬への参加を打診。
- ・ R8.2/4 NOK 株式会社へ訪問し、同ネットワークの紹介。

13) 企業の防災備蓄品の利活用による連携づくり（新規・具体化）

- 【NPO等】 一般社団法人ふくしま県域災害支援ネットワーク
一般社団法人ふくしま連携復興センター
NPO 法人福島県防災士会
NPO 法人表郷ボランティアネットワーク
JVOAD
※NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

【企業等】 株式会社こんの（取引先：大手企業）

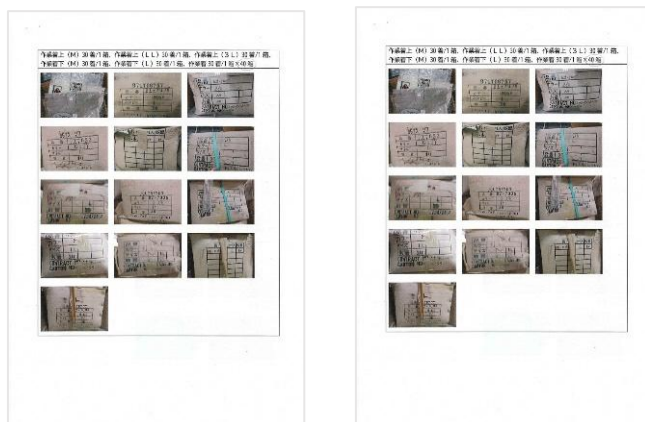
【実施概要】

- ・ 株式会社こんのから、取引先から入れ替え等の理由により保管している防災備蓄品を処分する依頼を受けたが、単に処分するのではなく、利活用できる受け入れ可能な NPO 等を紹介してほしいとの相談があった。
- ・ 主に防災用品であったため、復興支援 NPO や防災関連の NPO 等、ネットワークにつなぎ、各所の要望等を取りまとめ、同社に情報共有した取組み。
- ・ 引き取り条件としては、福島市に保管している倉庫まで取りに来られることが可能な団体。一括での引き取りを希望。

【実施スケジュール】

- ・ 11/14 株式会社こんのからの相談・団体ニーズの有無の打診
- ・ 12 月中 サポセンから引き取り希望の団体を募集
※取引先の希望による非公開のため、一般社団法人ふくしま県域災害支援ネットワークや一般社団法人ふくしま連携復興センターを通して実施
- ・ R8.2/25 引き取りを希望する団体の要望数等を(株)こんのへ情報共有。

【入れ替え予定の防災備品リスト】※一部



14) ひきこもりの若者の社会復帰に向けたチャレンジ就労機会の提供（継続・具体化）

【NPO等】 NPO 法人ビーンズふくしま

【企業等】 合同会社ジーアール福島

【実施概要】

- ・ 長年ひきこもりとなった若者の社会復帰を目指し、対人折衝などのコミュニケーションでの負担が少ない清掃活動等のチャレンジ就労の機会をマッチングした取組み。
- ・ 主に、終業後の工場や住宅メーカーの宿泊体験施設などの清掃を実施。

【実施スケジュール】

- ・ 月平均4回程度。

15) 市民活動サポートセンターと企業とのつながりの創出（新規・具体化）

【NPO等】 福島市市民活動サポートセンター

【企業等】 NOK 株式会社、株式会社こんの

【実施概要】

- ・ 令和8年3月11日に実施した福島市市民活動サポートセンター登録団体交流会において、企業×NPO・地域連携事例として、NOK 株式会社、株式会社こんのの事例を紹介し、事例発表をコーディネートした取組み。

- ・ 同会においては、NOK 株式会社で実施しているこども食堂の取組みに参加しているボランティア学生も参加し、会後半で開催されたグループトークにおいて、同サポートセンターの登録団体との交流を深めた。

【実施スケジュール】

- ・ R8.2/4 NOK 株式会社への訪問
- ・ R8.3/11 登録団体交流会の開催 ※当日の参加者（26名）

【交流会での様子】



③ 伴走支援

- ・ 伴走支援：30件

(NPO等：11件、企業等：13件、その他：6件)

- ※備考
- イ) 協働できそうな他セクターを紹介する
 - ロ) 他セクターとの打合せの場をセッティングした
 - ハ) 協働実現に向けて助言、サポート等を実施した

NPO等

1) 一般社団法人ふくしま連復復興センター（福島市）

イ) ロ) ハ) - ※協働 9、13 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 相双地区での復興状況、復興支援のNPO等の課題等のヒヤリング
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
- ・ 同会において、参加企業等とのマッチング
- ・ 防災備蓄品の利活用における連携

2) 一般社団法人 Bridge for Fukushima（福島市）

イ) - ロ) ハ) - ※協働 2 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 福島県立専門高校、県外専門学校をつなぐ復興に向けた交流の場づくりへの参加
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加

3) NPO 法人 Global mission Japan（いわき市）

イ) - ロ) ハ) -

<実施内容>

- ・ 同団体が実施した協働事例について事例集としてまとめ、公開
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加

4) NPO 法人福島県立美術館協力会（福島市）

イ) ロ) ハ) - ※協働 4 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 同法人が所在する県立美術館周辺で美化活動をしている企業（福島板金工業株式会社）を紹介。
- ・ 企業、NPO 等が連携して取り組む土台づくりの意見交換を実施。

5) NPO 法人小さな拠点おおか（いわき市）

イ) ロ) ハ)

<実施内容>

- ・ 地域での連携におけるネットワーク組織や支援企業等との関係構築同団体の取り組みについてヒヤリングを実施。
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加
- ・ 同会において、参加企業等とのマッチング。

6) ビルダーズドリームラボ(相馬市 任意団体)

イ) ロ) ハ) ※協働 3 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 相馬地区の子ども応援マルシェイベントのヒヤリング。
- ・ 同イベントへのキャノン MJ の復興支援活動の紹介、オンライン会議を実施。
- ・ 同団体の NPO 法人化も含めた基盤づくりの提案。

7) NPO 法人福島市聴覚障害者福祉会※なのはなの家（福島市）

イ) ロ) ハ) ※協働 4、5 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 就労継続支援 B 型事業所を運営しており、事業所における設立理念として、「地域の方々と共生できる事業所」を掲げている。
- ・ 同地区で、同じ理念をもとに地域社会貢献活動（美化活動）を実施している企業があり、連携・協力に向けて紹介。共に美化活動を実施。
- ・ 近隣町内会も含め、顔合わせ交流会の実施。

8) 一般社団法人 CARNIVAL WORKS (郡山市)

イ) - ロ) ○ ハ) ○ ※協働 2、9 を参照

<実施内容>

- ・ 昨年度の企業との連携事例のヒヤリング
- ・ 福島県立専門学校、県外専門学校をつなぐ復興に向けた交流の場づくりへの参加
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
※来年度、同勉強会に参加した企業と連携して、子ども向けイベント「キッズニアイベント」実施する予定。

9) NPO 法人はなのころ (いわき市)

イ) ○ ロ) ○ ハ) ○ ※協働 8 を参照のこと

<実施内容>※マッチング要望団体

- ・ 活動内容、企業との連携状況についてヒヤリング (オンライン、対面)
- ・ 企業団体等の紹介 (マルト、ハニーズ)
- ・ 協働推進トークセッションでの事例発表
- ・ 同会において、参加企業等とのマッチング。

10) kokoyori(須賀川市 任意団体) ※協働 9 を参照のこと

イ) ○ ロ) ○ ハ) - ※協働⑨を参照

<実施内容>

- ・ 県中地域におけるこども食堂等の取組みについてヒヤリング
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
- ・ 同会において、参加企業等とのマッチング。

11) 一般社団法人 tenten (福島市)

イ) ○ ロ) ○ ハ) -

<実施内容>

- ・ 株式会社プレイスメイキングふくしま伊達と連携して実施している移住・定住の取組みをヒヤリング
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加

企業等

12) キヤノンマーケティングジャパン株式会社

イ) ロ) ハ) ※協働 1、3 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 同社の強みを活かした社会貢献活動を実施しており、ヒヤリングにおいて、相双地域への活動を展開したいとのニーズがあった。
- ・ 同地域の NPO 団体、サポートセンターを紹介。
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加
- ・ 同会において、NPO 等との打合せ、マッチング。

13) 福島钣金工業株式会社（福島市）

イ) ロ) ハ) ※協働 2、4、11 を参照

<実施内容>

- ・ 同社は福島県立美術館と同地区に立地しており、社会貢献活動の一環として 2007 年から美術館周りの美化活動を展開している。
- ・ 地域に貢献する企業や団体との共生を模索しており、地域にある NPO 法人、地縁町内役員を紹介、交流会を実施した。
- ・ ふくしま SDGs 推進プラットフォームの紹介、同ネットワークへの加入。

14) 有限会社ネットワーク調剤

イ) ロ) ハ)

<実施内容>

- ・ NPO 法人小さな拠点おおか等との連携の取組みをヒヤリング
- ・ 相双地域への活動展開を検討しており、南相馬市において、高齢者支援で認知症予防のための教室を開催している NPO 団体（NPO 法人かけはし）があり、連携を提案した。
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加

15) 株式会社セイユー建設

イ) ロ) ハ) ※協働 3 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 相馬地区の子ども応援マルシェイベントのヒヤリング。
- ・ 同イベントへのキャノン MJ の復興支援活動の紹介、オンライン会議を実施。
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加

16) 株式会社プレイスメイキングふくしま伊達

イ) ○ ロ) - ハ) ○ ※協働6を参照

<実施内容>

- ・ 複合施設 U-プレイス伊達で実施している移住・定住の取組みをヒヤリング。
- ・ 定住者支援の取組みを県北地域のNPO等へ広報・PR するため、福島市市民活動サポートセンターへつなぎ、広報・PR を実施。

17) 三本珈琲株式会社、ダイユーエイト MAX 福島

イ) - ロ) - ハ) ○ ※協働7を参照

<実施内容>

- ・ ダイユーエイト MAX 福島店、NPO 法人チームふくしまとの連携
※昨年度からの継続案件
- ・ 福島市市民活動サポートセンターへイベントの告知依頼を実施。
- ・ 新聞社へイベント当日の取材依頼を実施。

18) 東北労働金庫福島県本部

イ) ○ ロ) ○ ハ) -

<実施内容>

- ・ 労金での社会貢献活動の状況をヒヤリング
- ・ 労金で実施している助成（東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金制度）への団体選定のアドバイス、団体推薦・紹介
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加

19) 福島キャノン株式会社

イ) ○ ロ) ○ ハ) ○ ※協働 5、9、10 を参照

<実施内容>

- ・ 同社が福島県立聴覚支援学校において実施した環境社会貢献活動「ジュニア・フォトグラファーズ」において、環境に関する難しい表現・単語について、対象者の小学校3～4年でも分かりやすい資料づくりが課題となった。
- ・ 聴覚障がい者への配慮する面も考慮し、資料・動画の作成が可能な障がい者支援団体と連携・協力して作成することを同社に提案。就労継続支援 B 型事業所オハイアライをマッチングコーディネートした。
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
- ・ 同会等において、NPO 等とのマッチング。
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加。

20) 庄司建設工業株式会社

イ) ○ ロ) ○ ハ) ○ ※協働 10 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 同社で実施している社会貢献活動についてヒヤリング。
- ・ 南相馬市において、子どもの職業選択のための「オンライン見学会」を打診。福島キャノンの協力で同社制作の福利厚生施設のオンライン見学を実施。
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加。

21) 東北建設株式会社

イ) ○ ロ) - ハ) -

<実施内容>

- ・ 社会貢献活動、NPO 等との協働についてヒヤリング。
- ・ ふくしま県域災害支援ネットワークのイベントを紹介
- ・ ふくしま SDG s 推進プラットフォームの紹介

22) 株式会社こんの

イ) ロ) ハ) ※協働 13、15 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 社会貢献活動、NPO 等との協働についてヒヤリング
- ・ 企業が備蓄している防災用品の入れ替えが予定されており、利活用できる受入 NPO 等の紹介を依頼。
- ・ 福島市市民活動サポートセンター登録団体交流会への参加

23) 日本政策金融公庫

イ) ロ) ハ)

<実施内容>

- ・ ふくしまソーシャルビジネス支援ネットワークへの参加
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
- ・ 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま」への参加。
- ・ 同会等において、NPO 等とのマッチング。

24) NOK 株式会社（福島事業場）

イ) ロ) ハ) ※協働 9、12、15 を参照

<実施内容>

- ・ 社員食堂を活用したこども食堂の取組みのヒヤリング
- ・ 地域防災協定、町内会との連携した避難訓練のヒヤリング
- ・ ふくしま県域災害支援ネットワークの紹介
- ・ NPO、企業等との勉強会～地域で支えるこども食堂の取組み～への参加
- ・ 同会等において、NPO 等とのマッチング。
- ・ 福島市市民活動サポートセンターへの紹介・コーディネート。

その他

25) 県立高等学校（福島商業高校、福島明成高校）

イ) ロ) ハ) ※協働 2 を参照

<実施内容>

- ・ 福島県立専門高校と県外専門学校をつなぐ復興に向けた交流の場づくりへの参加。
- ・ 高校生がこれまでに学習してきた成果（県内の復興状況等）を発表する機会の提供
- ・ 同会において、県内企業・NPO等をマッチング。

26) ECC 国際外語専門学校

イ) ロ) ハ) ※協働 2 を参照のこと

<実施内容>

- ・ 福島県立専門高校、県外専門学校をつなぐ復興に向けた交流の場づくりへの参加。
- ・ 同会において、県内企業・NPO等とのマッチング。

27) 福島県立聴覚支援学校（福島校） ※協働 5 を参照のこと

イ) ロ) ハ)

<実施内容>

- ・ 環境社会貢献活動「ジュニア・フォトグラファーズ」（実施主体：福島キヤノン株式会社）を同校において実施（25年6月）。
- ・ 同取組みにおいて、環境に関する難しい表現・単語について、対象者の小学校3～4年でも分かりやすい資料づくりが課題となった。
- ・ 聴覚障がい者への配慮する面も考慮し、資料・動画の作成が可能な障がい者支援団体と連携・協力して作成することを同社に提案。就労継続支援 B 型事業所オハイアライをマッチングコーディネートした。

28) ふくしま SDGs 推進プラットフォーム

イ) ロ) ハ) ※協働 11 を参照

<実施内容>

- ・ 昨年度事業のふりかえり、今年度事業での連携、協力を依頼
- ・ 各企業への登録の呼びかけ
- ・ 福島鋳金工業株式会社が同ネットワークに参加。

29) 樺台町内会

イ) ロ) ハ) ※協働 4 を参照

<実施内容>

- ・ 社会貢献活動の一環として 2007 年から美術館周りの美化活動を展開している福島鋳金工業株式会社を紹介。また、地域にある NPO 法人、地縁町内役員を紹介、交流会を実施した。

30) 就労継続支援 B 型事業所オハイアライ

イ) ロ) ハ) ※協働 5 を参照

<実施内容>

- ・ 福島キャノン(株)が実施する環境社会貢献活動の資料制作に向けてヒヤリングを実施。
- ・ 福島キャノン(株)との交流会の実施。

(2) マッチングのモデルケース創出

モデルケース創出：実績 2 件

- ① 多様な主体による地域円卓会議（浪江町）
- ② 多様な主体による地域円卓会議（大熊町）

○背景

本格的な復興・再生期を迎える相双・双葉地域において、多セクター間の連携・協力を推進し、地域課題解決の基盤を構築するためには、双葉 12 市町村での情報共有の場やコーディネートできる人材が不足している現状がある。

○実施内容

①「子どもに関する課題」、②「高齢化のまちづくり」、③「まちづくり」をテーマとして取り上げ、地域コーディネーターの育成を目指し、地域づくりの先進事例の視察や勉強会を実施。同地域において、核となる人物がネットワーキングを強化する力を身に付け、地域の情報共有の場づくりの創出を目指す取組み。

○対象地域

浪江町を中心に、富岡町、大熊町地区を対象とする。

○ヒヤリング実績

- ・ 浪江町での実施（10/25）
NPO 法人コーヒータイム、任意団体なみとも、浪江に帰還された方
（他関係参加者：26 名）
- ・ 大熊町での実施（12/6）
大熊町復興支援員、HITOkumaib（大熊町）、株式会社いんふお（大熊町）
大熊町への移住者（子どもの教育環境を整える目的での移住者）
（他関係参加者：30 名）

○課題

- ・ 小さなコミュニティー単位で(テーマを子育てとしたグループや移住者のグループ、帰還した高齢者グループ 等)の連携活動や取り組みはみられるが、全体を網羅する取り組みがなく、支援を受けることができない地域や孤立化してしまう住民もみられる。そのため、全体をコーディネートする人材が必要と感じられた。
- ・ 人口減少に伴い、それぞれの課題が多様で複雑化しているため、住民や活動団体、行政が抱える背景によって、課題が飽和状態であるように感じた。そのため、それぞれの活動をネットワーク化して、取り組んでいく必要があると考える。
- ・ 移住者と帰還者との考え方や地域への想いに差があるが、それぞれの考えを中和させた時にコミュニティーや連携・地域課題への解決があると感じている。
- ・ 円卓会議を実施するに際して、なかなかニーズが合わず、企業の協力を得ることが難しかった。企業のニーズも網羅した取り組みが必要と感じている。

○成果

- ・ 帰還者、移住者、企業、それぞれの立場で行っている取り組みや考えを理解する場となったことが、今後のネットワークの強化や取り組みにつながる機会となったと思う。また、コーディネーター候補とするキーマンの発掘の機会になったと感じている。
- ・ 今年度においては、何らかの取り組みを行っている代表者との円卓会議としたが、今後、多くの参加者を巻き込んで地域に根付くコミュニティー会議とするための基盤やアプローチ事例を作ることができたと感じている。

【会場の様子】



(3) NPOと企業等との協働推進シンポジウムの開催

○成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま

～成果報告や企業等との協働事例を通して考える「ふくしまの復興」～

○開催実績：R8.2/6 参加者：80名（会場：39名、オンライン：41名）

※詳細については、附属資料-5 「成果報告・協働推進トークセッション in ふくしま 開催報告」を参照のこと

(4) マッチング事業の情報発信（ウェブサイトの作成・公開等）

○実績

HPでの情報発信：4回

Facebookでの情報発信：17回

○マッチング事業 HP 訪問者の推移（令和7年度訪問者実績：573件）

4月（21件） 5月（30件） 6月（111件） 7月（34件）

8月（107件） 9月（26件） 10月（29件） 11月（46件）

12月（27件） 1月（23件） 2月（31件） 3月（88件）

○情報発信の概要

250618（HP） 令和7年度事業開始のお知らせ

250630（HP） 協働事例の紹介①

250630（HP） 協働事例の紹介②

250819（HP、F） 企業等とのマッチング伴走支援 希望団体の募集

250820（F） 三本珈琲株式会社、ダイユーエイト MAX 福島店、
NPO法人チームふくしま

- 250909 (F) 専門高校における協働的学びをテーマとした地域の
魅力報告会
- 250911 (F) ふくしま SDGs 推進プラットフォーム様との打合せ
- 250916 (F) 地域のつながりを育む清掃美化活動
- 251031 (F) 一般社団法人 tenten 訪問
- 251201 (F) 「美・図書周辺をきれいにし隊」活動
- 251201 (F) NPO 法人はなのころの紹介
- 251201 (F) 就労継続支援 B 型事業所「オハイアライ」の紹介
- 251205 (F) NOK (株) こども食堂の取組み
- 251210 (F) とっておきの音楽祭 (福島酸素株式会社)
- 251210 (F) 地域にひろがる清掃活動
- 260107 (F) フードドライブ エスパル福島の取組み紹介
- 260109 (F) 成果報告・協働推進トークセッション開催について
- 260121 (F) NPO、企業等との勉強会 (情報交流会) 開催
～地域で支えるこども食堂の取組み～
- 260202 (F) トークセッション 申込延長のお知らせ
- 260213 (F) 成果報告・協働推進トークセッション開催御礼

4. マッチング事業の成果

(1) NPO、企業等の情報収集・情報提供、伴走支援等

情報収集 ヒヤリング実績：56件

(NPO等：15件、企業等：19件、その他：15件、復興・被災者支援：7件)

情報提供

① NPO、企業等との連携・協力についての事例集作成・公開：3事例

② NPO、企業等向け各勉強会の実施：1回

伴走支援

① 伴走支援を希望するNPOの募集：新規2件 継続1件

② 協働 実績：15件（新規：12件、継続：3件）

※内検討：3件、具体化：12件

③ 伴走支援：30件

(NPO等：11件、企業等：13件、その他：6件)

(2) モデルケース創出：実績2件

多様な主体による地域円卓会議（浪江町）

多様な主体による地域円卓会議（大熊町）

(3) NPOと企業等との協働推進シンポジウムの開催

開催実績：R8.2/6

参加者：80名（会場：39名、オンライン：41名）

(4) マッチング事業の情報発信（ウェブサイトの作成・公開等）

実績 HPでの情報発信：4回

Facebookでの情報発信：17回

マッチング事業HP 訪問者実績：573件

本年度のNPO、企業等との連携・協力（マッチング）事業 総括

今年度のマッチング事業においては、復興・被災者支援を担うNPO等と企業等の結びつきを強め、具体的な協働活動へとつなげる支援を主眼にして活動を実施してきました。特に、本格的な復興・再生期を迎える相双・双葉地域において、多セクター間の連携・協力を推進し、地域課題解決の基盤を構築することを目指し活動を展開してまいりました。

<地域特性と現状の課題>

相双・双葉地域においては、東日本大震災及び原子力災害に伴う避難指示の影響により、既存の産業基盤が失われたという地域となり、避難指示解除後においても、NPOや企業は依然として少ないのが現状となります。

また、立地企業の多くが建設・土木関連であり、小売業などの生活関連サービス等を提供する「NPO活動との親和性が高い業種」が不足している課題もあります。本年度実施したヒヤリング調査においても、他セクターとの協働に関する土壌が十分に醸成されておらず、協働のメリットが地域全体に浸透していない実態が浮き彫りとなりました。

<本年度の重点的取組>

こうした課題を踏まえ、本年度は「協働に向けた基盤づくり」に重点を置いて活動いたしました。具体的には、企業が単独で実施している社会貢献活動の実態把握を行うとともに、NPOの活動実態や協働の成功事例を広く紹介いたしました。これにより、各セクター間の相互理解を促進し、将来的な関係構築に向けた意識の醸成を図ってまいりました。

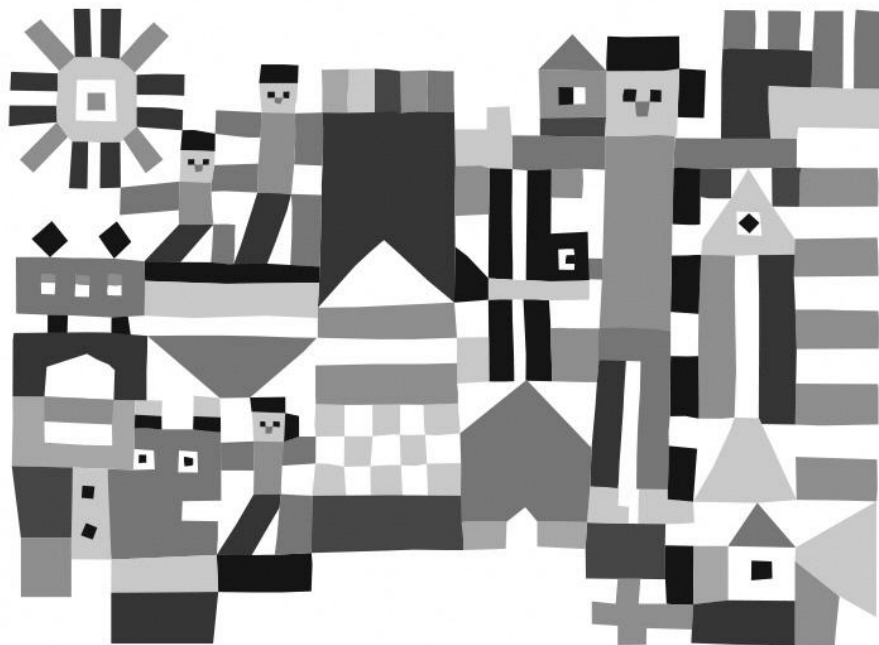
また、人口減少や少子高齢化が進行する中、NPOと企業が連携して取り組む「移住・定住支援」や、中山間地域において住民や企業を巻き込み、地域づくりに参画する活動に着目いたしました。

<成果と今後の展望>

これらの活動で培われた知見は、今後、本格的な住民帰還を目指す相双・双葉地域において、行政の手が届きにくい細やかな生活支援ニーズへの対応や、途絶えがちな地域コミュニティの再生に大きく寄与するものと期待されます。

また、今年度導入した「NPO、企業等との勉強会」は、企業が参加しやすい環境を整え、顔の見える交流の場を提供できたことで、実効性のある連携を推進する貴重な機会となりました。

特に、2月9日に実施したトークセッションにおいても提起されたように、今後は「行政とNPO」「NPOと企業」といった1対1の枠組みに留まらず、多様な主体が「課題」や「実現したいテーマ」を真ん中に据えて集う「多主体での連携・協力」が不可欠となります。この視点こそが、複雑化する社会課題を解決にアプローチする可能性があり、今後のマッチング事業推進における重要な視座となります。



令和7年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務
NPO、企業等との連携・協力事業
(マッチング事業)

令和8年3月 発行

ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階

TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741

URL <https://fnpo-matching.f-saposen.jp/>

事業委託：福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課

事業受託：認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター
